

はつ とり た ろ きち

服部太郎吉

職人技で富を築く
— 岡崎工業学校の創立に貢献 —服部太郎吉 (1860 ~ 1941)
岡崎工業高校の玄関前にある銅像

服部太郎吉は、1860(慶應元年)年に旧岩津町で中根利喜造氏の二男として生まれ、12歳の時(1871年)に、岡崎町両町に住む鍋釜及び仏具類修繕を業とする服部佐助氏の養子となり、鋳物師の修業に入る。太郎吉は岡崎藩の御用鋳物師安藤金得のもとで仕事を学び、26歳の時(1885年)に安藤家の世業を継承し、鋳物業を創業し、鍋釜、風呂釜、並びに機械鋳物類の製造を開始した。

太郎吉は鋳造業に成功し、1919(大正8)

年には服部鋳造株式会社(現服部工業(株))を設立した。ピーク時には600人もの職工を擁する工場にまでなったようである。また、この工場で生産された釜は「三州釜さんしゅうがま」と名付けられて、かなりの生産額をあげ、海外にまで販路が伸びていたようである。

■服部公益財団の設立

太郎吉は熱心な仏教信者で、1918(大正7)年に「服部公益財団」を設立して、慈善事業を始めた。その契機となったのは、前年の1917年7月に開催された「市制施行一周年記念講演会」において、当時著名な山下信義氏による「富と人生」と題する講演を聞いたことであった。「人は富を作るという事だけでは立派なる人とは言えぬ。その作った富をいかに有効に使うかということを決まるものである」という話に感銘を受けた太郎吉は、講演後に直接山下に進むべき道を探ね、慈善は財団法人を作れとのアドバイスを得た。



岡崎工業学校(大正13年) 出典:『岡工50年記念誌』

■生い立ちから鋳物師のもとでの修業をへて服部鋳造株式会社設立へ

服部太郎吉は、1860(慶應元年)年に旧岩津町で中根利喜造氏の二男として生まれ、12歳の時(1871年)に、岡崎町両町に住む鍋釜及び仏具類修繕を業とする服部佐助氏の養子となり、鋳物師の修業に入る。太郎吉は岡崎藩の御用鋳物師安藤金得のもとで仕事を学び、26歳の時(1885年)に安藤家の世業を継承し、鋳物業を創業し、鍋釜、風呂釜、並びに機械鋳物類の製造を開始した。



服部太郎吉が使用した鋳掛けふいご

服部工業歴史館所蔵



服部工業の鋳造工場における三州釜の鋳造(昭和時代)

写真は、砂型から取り出されたばかりの三州釜

写真:石田正治

■岡崎工業学校の再建

この服部公益財団の事業の一つが岡崎工業学校に対する援助であった。1912(明治45)年2月に知立町に伊豆原甚之助氏が創設した私立愛知工芸学校が1920(大正9)年3月に岡崎に移転したが、経済的に困難をきわめて廃校の危機に陥っていた。それを聞いた太郎吉が、学校の敷地となる土地(岡崎市羽根町)を寄付し、新築校舎を建設し、運営費を援助して、1924(大正13)年岡崎工業学校を創立した。この学校はのちに愛知県に寄付され、現在の愛知県立岡崎工業高等学校となっている。

(横山悦生)